

PRIMERGY

CX122 S1

CA92344-0005-01



インストールガイド

Red Hat Enterprise Linux 6.0




PRIMERGY CX122 S1でRed Hat Enterprise Linux 6.0
をご利用になるためのインストール方法や運用前に
必要な操作について説明しています。
また、仮想マシン機能の管理OS のインストールについ
ても説明しています。

本書をお読みになる前に

本書の表記

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
 仮想	仮想マシン機能をお使いの場合に必要な情報、または読み替えていただく情報を示しています。仮想マシン機能をお使いになる場合は、参照先をクリックして読み替えて下さい。
(→ P.xx)	参照先のページを示しています。クリックすると該当ページへ移動します。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ DVD-ROM ドライブの表記について

本書では、DVD-ROM ドライブを「CD/DVD ドライブ」と表記しています。

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:
  ↑  ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。
- コマンド実行の操作は、コマンドを入力して【Enter】キーを押してください。

■ CD/DVD が自動的にマウントされない場合

シングルユーザモード、テキストモードを使用する場合、CD/DVD などのメディアは自動的にマウントされません。

CD/DVD が自動的にマウントされない場合は、次のコマンドを実行してください。

```
# mount -r /dev/cdrom /media/<メディアのボリューム名>
```

初回マウント時に次のコマンドを実行して、CD/DVD のマウントポイントを作成してください。

```
# mkdir /media/cdrom
```

■ 仮想マシン機能をお使いになる場合

最初に「[付録A 仮想マシン機能をお使いになる場合](#)」(→P.21)をご覧ください。

※オンボードソフトウェア RAID 構成をご使用の場合には、仮想マシン機能は使用できません。

■ 保守サービスについて

弊社では、お客様に安心して Linux を使用していただくために、有償サポート・サービスをご用意しております。有償サポート・サービスをご契約いただくと、本書に関するご質問、インストールや運用の際に発生する疑問やトラブルなどについて解決支援させていただいております。有償サポート・サービスをご契約いただくことをお勧めします。

■ PRIMERGY のドライバ&修正プログラムについて

各種ドライバや BIOS、ファームウェア、添付ソフトウェアなどの最新モジュールを、次の弊社インターネット情報ページにて提供しております。システム安定稼動のため、常に最新モジュールを適用して運用されることを推奨します。

<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/downloads/>

なお、最新モジュールのダウンロード、および適用作業につきましては、お客様自身で実施いただきますようお願いいたします。

弊社にて作業実施をご依頼されるお客様は、有償にて承っております。担当営業員、または販売店までお問い合わせください。

■ 商標

Microsoft、Windows、Windows Server は、Microsoft Corporation のアメリカ合衆国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏のアメリカ合衆国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Red Hat および Red Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、アメリカ合衆国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です。

Intel は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはそのグループ会社の登録商標または商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

Copyright FUJITSU LIMITED 2011

目 次

本書をお読みになる前に	2
第 1 章 インストール前の準備	5
1.1 インストールDVDの作成	5
1.2 RAID ドライバの準備	6
第 2 章 システムのインストール	7
2.1 インストールの流れ	7
2.2 インストールの開始	8
2.3 インストール後の環境設定	19
付録 A 仮想マシン機能をお使いになる場合	21
A.1 インストール時の注意事項	22

第 1 章 インストール前の準備

CD/DVD ドライブ（および DVD インストールメディア）を使用して、ローカルシステムに直接接続されたハードドライブへインストールする手順を説明します。インストールを開始する前に、必要なディスクを作成します。

■ RHN の登録

システムをインストールする際、RHN（Red Hat Network）からデータをダウンロードする必要があります。データのダウンロードにあたり、RHN の登録が必要です。

詳細については、「レッドハットのサポート Red Hat Network、サブスクリプションの登録方法」(<http://www.jp.redhat.com/FAQ/regist.html>) をご覧ください。

1.1 インストール DVD の作成

インストールを開始する前に、次の DVD を作成する必要があります。未使用の DVD を 1 枚用意してください。

項目	本書での表記	備考
Red Hat Enterprise Linux 6 (for Intel64) インストール DVD	インストール DVD	Red Hat 社から提供される Red Hat Enterprise Linux 6 (for Intel64) をダウンロードして作成します。

1 RHN にログインします。

2 Binary Disc の ISO イメージをダウンロードします。

RHN の画面にチェックサムが記載されています。サイズとチェックサムを確認してください。

3 ダウンロードした ISO イメージからインストール DVD を作成します。

作成した DVD には、「インストール DVD」と記載しておきます。



- インストール DVD でサポートされるカーネル版数は「2.6.32-71.el6」です。



- [「■インストール前の設定 \(BIOS セットアップユーティリティ\)」 \(→P.21\)](#)

1.2 RAID ドライバの準備

オンボードソフトウェア RAID（Intel® Embedded Server RAID Technology II）をご使用の場合は、RAID ドライバを準備する必要があります。

■ 準備するもの

操作を開始する前に、次のものを準備してください。

- ・ 空の CD-R/RW 媒体

■ 手順

- 1** PRIMERGY のドライバ&修正プログラムの掲載ページにアクセスします。
(<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/downloads/>)
- 2** 「ダウンロード検索」から、製品名に「PRIMERGY CX1000」を選択し「検索開始」をクリックします。
- 3** 検索結果から、「PRIMERGY CX122 S1 オンボードソフトウェア RAID ドライバ for Red Hat Enterprise Linux 6」を選択し、ダウンロードします。
- 4** ダウンロードしたドライバモジュール(ISO イメージファイル)を CD-R/RW 媒体へ書き込みます。(ファイルのコピーではありません)

第2章 システムのインストール

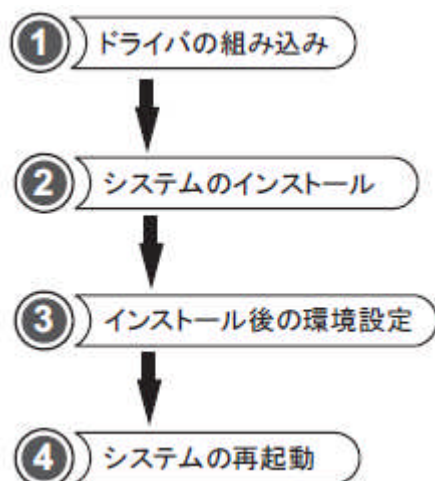
システムをインストールする方法について説明します。

POINT

- あらかじめ、「第1章インストール前の準備」 ([→P.5](#)) をご覧になり、必要なディスクを作成してください。

2.1 インストールの流れ

手動インストールは次の流れで行います。



●準備するもの

操作を開始する前に、次のものを準備してください。

- ・ インストール DVD
「1.1 インストール DVD の作成」 ([→P.5](#))
- ・ オンボードソフトウェア RAID ドライバ CD
「1.2 RAID ドライバの準備」 ([→P.6](#))

2.2 インストールの開始

1 電源ボタンを押し、インストール DVD をセットします。

しばらくすると、ブートメニューが表示されます。

◆アレイ未構成の場合： 手順2に進みます。

◆オンボードソフトウェア RAID 構成の場合： 手順7に進みます。



POINT

- コマンドを入力しないまま、一定時間（約 1 分）を経過すると自動的にロードが開始されます。
その場合は【Ctrl】+【Alt】+【Del】キーを押し、やり直してください。
- 以降はキーボードで操作を行います。
項目選択：【←】【→】【↑】【↓】キーもしくは、タブキー
項目決定：【Enter】キー

2 アレイ未構成の場合の手順

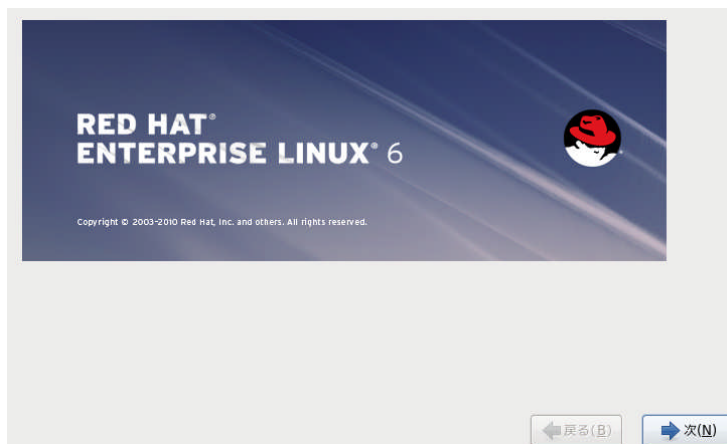
「Install or upgrade an existing system」を選択し、【Enter】キーをクリックします。

3 「Skip」をクリックします。



4 「次」をクリックします。

言語を選択する画面が表示されます。



5 「Japanese」を選択し、「次」をクリックします。

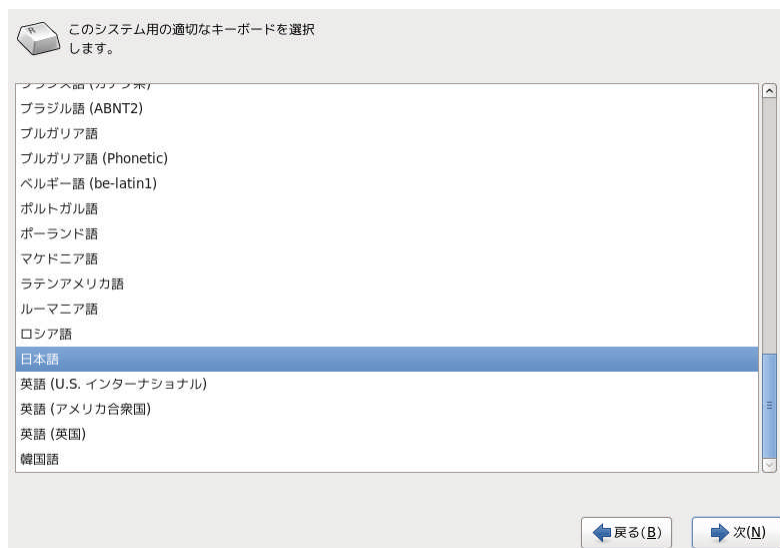
キーボードの選択画面が表示されます。

6 「日本語」を選択し、「次」をクリックします。

手順 20に進みます。



本操作ではキーボードが動作しない場合があります。その場合は、一時的にキーボードを外してマウスを接続し、マウスにより操作します。



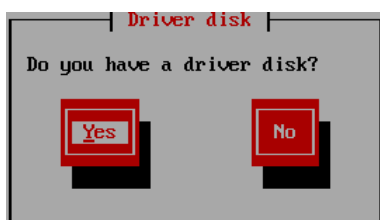
7 オンボードソフトウェアRAID構成の場合の手順

「Install or upgrade an existing system」を選択し、【Tab】キーをクリックします。

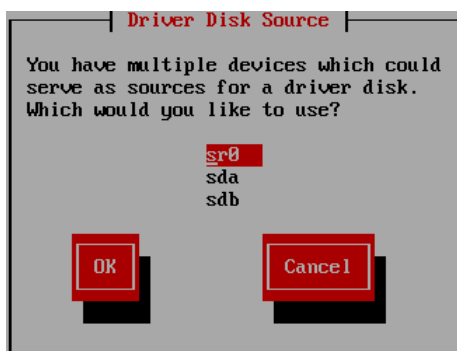
8 ブートオプションに” dd” を追加して【Enter】キーをクリックします。

```
> vmlinuz initrd=initrd.img dd
```

9 「Yes」をクリックします。



10 「sr0」を選択し、「OK」をクリックします。



11 オンボードソフトウェア RAID ドライバ CD をセットし、「OK」をクリックします。

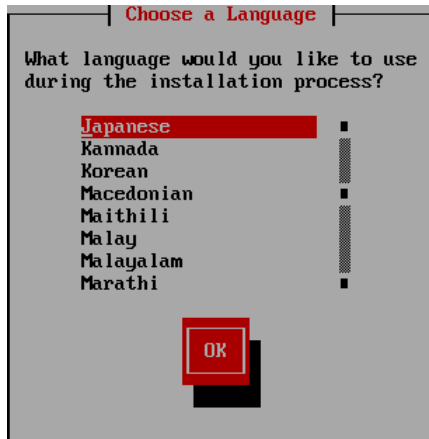
ドライバが読み込まれます。



12 「No」をクリックします。



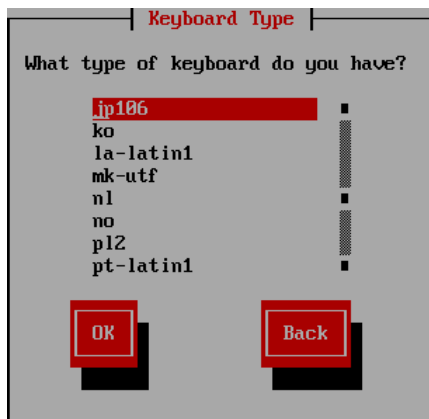
- 13 「Japanese」を選択し、「OK」をクリックします。



- 14 「OK」をクリックします。



- 15 「jp106」を選択し、「OK」をクリックします。



- 16 「Local CD/DVD」を選択し、「OK」をクリックします。



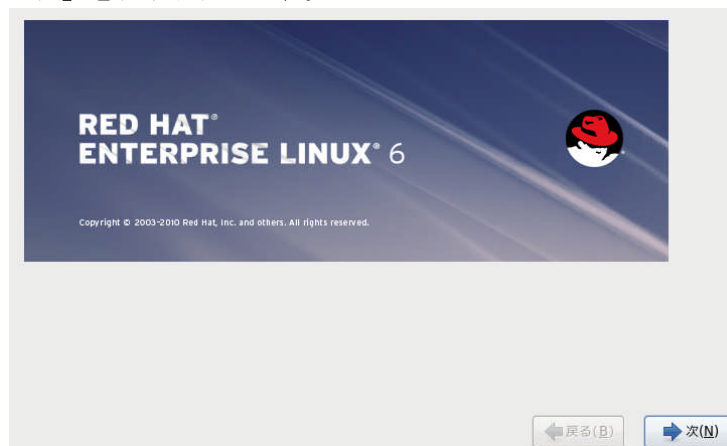
- 17 インストール DVD をセットし、「OK」をクリックします。



- 18 「Skip」をクリックします。



- 19 「次」をクリックします。



20 「基本的なストレージデバイス」を選択し、「次」をクリックします。

ネットワークの設定画面が表示されます。

21 ネットワーク設定を行い、「次」をクリックします。

お客様の環境に合わせたネットワーク設定を行ってください。

ネットワークの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

タイムゾーンの選択画面が表示されます。

22 「アジア/東京」が選択されていることを確認し、「システムクロックで UTC を使用」のチェックを外し、「次」をクリックします。

root パスワードの設定画面が表示されます。

23 システムの root（管理者）のパスワードを設定し、「次」をクリックします。

パスワードは、6 文字以上で入力してください。

ハードディスクパーティションの設定の画面が表示されます。

24 「すべての領域を使用する」、「パーティションのレイアウトをレビューまたは修正」をチェックし、「次」をクリックします。

25 ハードディスクドライブのパーティションを設定します。



- 各パーティション設定の際、「基本パーティションにする」の項目を必ずチェックしてください。
- 1. [作成]をクリックします。
パーティションの追加ダイアログが表示されます。
- 2. 「マウントポイント」を「/boot」、「ファイルシステムタイプ」を「ext3」に設定し、「サイズ (MB)」に「256」を入力して[OK]をクリックします。
- 3. [作成]をクリックし、「マウントポイント」を「/」、「ファイルシステムタイプ」を「ext3」に設定し、「サイズ (MB)」に「20480」を入力して[OK]をクリックします。
- 4. [作成]をクリックし、「ファイルシステムタイプ」を「swap」に設定し、「サイズ (MB)」も「2048」を入力して[OK]をクリックします。
タイプを「swap」に設定すると、マウントポイントは設定できません。
- 5. パーティションが次のように設定されていることを確認し、[次]をクリックします。

パーティション名	マウントポイント	タイプ	容量 (MB) [注1]
/dev/sda1	/boot	ext3	256MB
/dev/sda2	/	ext3	20480MB
/dev/sda3		swap	2048MB

[注1]：表の値は入力する容量を記述しています。実際の表記とは異なる場合があります。

POINT

- フォーマットの警告メッセージが表示される場合がありますが、問題はありません。
[フォーマット]をクリックして進んでください。
- 空き容量は、必要に応じてパーティションやマウントポイントを設定してください。
インストール後に設定することも可能です。

26 ブートローダーの設定をして、「次」をクリックします。

1. 「ブートローダパスワードを使用」をチェックします。
ブートローダパスワードの入力画面が表示されます。
2. パスワードを 6 文字以上で設定して[OK]をクリックします。

POINT

- 入力したパスワードが 6 文字より少ない場合は、メッセージが表示されます。

パッケージ情報読み込み中の画面が表示されます。

27 「今すぐカスタマイズする」を選択し、「次」をクリックします。

パッケージグループの選択画面が表示されます。

28 パッケージグループを次のように設定し、「次」をクリック押します。



- [「●パッケージグループの設定」 \(→P.22\)](#)

パッケージグループ名	
ベースシステム	
<input type="checkbox"/>	FCoE のストレージクライアント
<input type="checkbox"/>	Infiniband のサポート
<input type="checkbox"/>	Java プラットフォーム
<input type="checkbox"/>	Perl のサポート
<input type="checkbox"/>	iSCSI ストレージクライアント
<input type="checkbox"/>	クライアントをバックアップ
<input type="checkbox"/>	コンソールインターネット
<input type="checkbox"/>	ストレージ可用性ツール
<input type="checkbox"/>	スマートカードのサポート
<input type="checkbox"/>	セキュリティツール
<input type="checkbox"/>	ダイヤルアップネットワークサポート
<input type="checkbox"/>	ディレクトリクライアント

<input type="checkbox"/> デバッグツール
<input type="checkbox"/> ネットワーキングツール
<input type="checkbox"/> ネットワークファイルシステムクライアント
<input type="checkbox"/> ハードウェア監視ユーティリティ
<input type="checkbox"/> パフォーマンスツール
<input checked="" type="checkbox"/> ベース
<input type="checkbox"/> メインフレームアクセス
<input type="checkbox"/> レガシー UNIX の互換性
<input type="checkbox"/> 互換性ライブラリ
<input type="checkbox"/> 印刷クライアント
<input type="checkbox"/> 大規模システムのパフォーマンス
<input type="checkbox"/> 科学的なサポート
サーバー
<input checked="" type="checkbox"/> CIFS ファイルサーバ
<input checked="" type="checkbox"/> FTP サーバー
<input checked="" type="checkbox"/> NFS サーバー
<input checked="" type="checkbox"/> サーバーをバックアップ
<input checked="" type="checkbox"/> サーバープラットフォーム
<input checked="" type="checkbox"/> システム管理ツール
<input checked="" type="checkbox"/> ディレクトリサーバー
<input checked="" type="checkbox"/> ネットワークインフラストラクチャサーバ
<input checked="" type="checkbox"/> ネットワークストレージサーバー
<input checked="" type="checkbox"/> プリントサーバー
<input checked="" type="checkbox"/> 電子メールサーバー
Web サービス
<input type="checkbox"/> PHP サポート
<input type="checkbox"/> TurboGears アプリケーションフレームワーク
<input type="checkbox"/> Web サーバー
<input type="checkbox"/> Web サーブレットエンジン

パッケージグループ名
データベース
<input type="checkbox"/> MySQL データベースクライアント
<input type="checkbox"/> MySQL データベースサーバー
<input type="checkbox"/> PostgreSQL データベースクライアント
<input type="checkbox"/> PostgreSQL データベースサーバー
システム管理
<input checked="" type="checkbox"/> SNMP サポート
<input type="checkbox"/> WBEM サポート
<input checked="" type="checkbox"/> システム管理
<input type="checkbox"/> メッセージングクライアントのサポート
<input type="checkbox"/> メッセージングサーバーのサポート
仮想化
<input type="checkbox"/> 仮想化(*1)
<input type="checkbox"/> 仮想化クライアント
<input type="checkbox"/> 仮想化ツール(*1)
<input type="checkbox"/> 仮想化プラットフォーム
デスクトップ
<input type="checkbox"/> KDE デスクトップ
<input checked="" type="checkbox"/> X Window System
<input type="checkbox"/> グラフィカル管理ツール
<input checked="" type="checkbox"/> デスクトップ
<input type="checkbox"/> デスクトップのデバッグとパフォーマンスツール
<input type="checkbox"/> デスクトッププラットフォーム
<input type="checkbox"/> フォント
<input type="checkbox"/> リモートデスクトップクライアント
<input type="checkbox"/> レガシー X Windows システムの互換性
<input type="checkbox"/> 入力メソッド
<input type="checkbox"/> 汎用デスクトップ

パッケージグループ名
アプリケーション
<input type="checkbox"/> Emacs
<input type="checkbox"/> TeX のサポート
<input type="checkbox"/> インターネットブラウザ
<input type="checkbox"/> グラフィカルツール
<input type="checkbox"/> 技術文書
開発
<input type="checkbox"/> Eclipse
<input type="checkbox"/> その他の開発
<input type="checkbox"/> サーバプラットフォーム開発
<input type="checkbox"/> デスクトッププラットフォーム開発
<input type="checkbox"/> 開発ツール
言語
<input checked="" type="checkbox"/> 日本語のサポート

(*1) Intel64 でのみ選択可能です。

29 インストール完了画面が表示されます。



ここでは[再起動]をクリックしないでください。

30 【Ctrl】+【Alt】+【F2】キーをクリックします。

コマンド入力画面に移行します。

31 次のコマンドを実行し、不要なサービスを停止します。

```
sh-3.2# chroot /mnt/sysimage
sh-3.2# /sbin/chkconfig auditd off
```

32 次のコマンドを実行し、すべてが「off」になっていることを確認します。

```
sh-3.2# /sbin/chkconfig --list auditd
auditd 0:off 1:off 2:off 3:off 4:off 5:off 6:off
```

33 【Alt】+【F6】キーをクリックします。

インストール完了画面に戻ります。

34 DVD がセットされていないことを確認し、「再起動」をクリックします。

システムが再起動し、しばらくすると「ようこそ」画面が表示されます。

35 「進む」をクリックします。

ライセンス同意書が表示されます。

36 「はい、私はライセンス同意書に同意します」を選択し、「進む」をクリックします。

37 ソフトウェア更新の設定を行います。

1. 「いいえ、後日に登録することを希望します。」を選択し、[進む]をクリックします。

ダイアログが表示されます。

2. [いいえ、後で接続します。] をクリックします。

3. [進む] をクリックします。

ユーザーの作成画面が表示されます。



「システム上のネットワーク接続が使用できない状態です」と表示された場合

- インストール時のネットワーク設定で「DHCP 経由で自動設定」を選択し、IP アドレスを設定していない場合に表示されます。

インストールをすべて終了してから、ネットワーク設定を確認し、ソフトウェア更新を行ってください。

38 ユーザの作成画面が表示されます。ユーザを作成し、「進む」をクリックします。

日付と時刻の設定画面が表示されます。

39 日付と時刻を設定し、「進む」をクリックします。

kdump の設定画面が表示されます。

40 「終了」をクリックします。



kdump を使用する場合は、SupportDesk (<http://eservice.fujitsu.com/supportdesk/>) を参照してください。

41 [OK] をクリックします。

システムが再起動します。

再起動後、環境設定を行います。

2.3 インストール後の環境設定

システムインストール後に次の操作を行ってください。

POINT

- 環境設定の各操作は、`root` でログインして操作してください。

SELinuxを無効化します。

→「[■ SELinux の無効化](#)」(P.19)

EDAC 機能を無効化します。

→「[■ EDAC 機能の無効化](#)」(P.20)

重要

- すべての環境設定の操作が終わったら、システムを再起動してから運用を開始してください。

システム起動時のブート画面において GUI 画面からテキスト画面へ切り替わることがありますが、動作上問題はありません。

■ SELinuxの無効化

- 1 X-Window の画面で「端末」を開きます。
- 2 次のコマンドを実行し、`/etc/selinux/config` ファイルの編集を開始します。

```
# vi /etc/selinux/config
```

- 3 次のとおり内容を編集します。

- 変更前

```
SELINUX=enforcing
```

- 変更後

```
SELINUX=disabled
```

- 4 上書きします。

■ EDAC機能の無効化

- 1 X-Window の画面で「端末」を開きます。
- 2 次のコマンドを実行し、`/etc/modprobe.conf` ファイルの編集を開始します。

```
# vi /etc/modprobe.conf
```

- 3 次のとおり内容を編集します。

➤ 変更後

```
install *_edac /bin/true ←新規追加  
install edac_* /bin/true ←新規追加
```

- 4 上書きします。
- 5 次のコマンドを実行し、システムを再起動します。

```
# shutdown -r now
```

- 6 X-Window の画面で右クリックし、表示されたメニューから「端末を開く」を選択します。
- 7 次のコマンドを実行し、出力結果に何も表示されないことを確認します。

```
# lsmod | grep edac
```

付録 A 仮想マシン機能をお使いになる場合

仮想マシン機能をご利用になる場合は、仮想マシン機能について十分理解したうえで操作を開始してください。仮想マシン機能の管理OS のインストールを行う場合は、通常のLinux OS インストール方法とほぼ同じです。本付録では、通常のLinux OS との違いについて説明します。本内容をご確認のうえ、インストールを実施してください。

POINT

- 仮想マシン機能を使用しない通常のLinux OSを「ネイティブ」と呼びます。
- 仮想マシン機能に関する情報やゲストOSのインストール方法については、弊社インターネット情報ページ (<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/software/linux/>) をご覧ください。

■ インストール前の設定（BIOSセットアップユーティリティ）

仮想マシン機能の管理 OS をインストールする場合は、インストール前に次の BIOS 設定が必要です。BIOS セットアップユーティリティの設定方法については、添付の『ユーザーズガイド』をご覧ください。

BIOS 設定項目	設定値	説明
Virtualization Technology (VT-x)	Enabled (必須)	ご購入時は「Enabled」に設定されています。仮想マシン機能を使用する場合は、有効（「Enabled」）に設定されている必要があります。
Hyper-Threading	Disbaled(推奨)	ご購入時は「Enabled」に設定されています。「CPU使用率の把握が必要な場合は、Disbaledにしてください。」

■ インストール方法

[「第2章システムのインストール」 \(→P.7\)](#) をご覧ください。

インストールパッケージが異なります。[「A.1 インストール時の注意事項」 \(→P.22\)](#) を確認の上インストールを実施してください。

A.1 インストール時の注意事項

仮想マシン機能の管理OS をインストールする場合は、ネイティブ環境の[「第2章 システムのインストール」](#) (→ P.7) 手順と同じですが、インストールするパッケージが異なります。次に示す内容に読み替えて操作を行ってください。

● パッケージグループの設定

該当箇所：「2.2 インストールの開始」の手順28

28 パッケージグループを次のように設定し、[次]をクリックします。

パッケージグループ名	
ベースシステム	
<input type="checkbox"/>	FCoE のストレージクライアント
<input type="checkbox"/>	Infiniband のサポート
<input type="checkbox"/>	Java プラットフォーム
<input type="checkbox"/>	Perl のサポート
<input type="checkbox"/>	iSCSI ストレージクライアント
<input type="checkbox"/>	クライアントをバックアップ
<input type="checkbox"/>	コンソールインターネット
<input type="checkbox"/>	ストレージ可用性ツール
<input type="checkbox"/>	スマートカードのサポート
<input type="checkbox"/>	セキュリティツール
<input type="checkbox"/>	ダイヤルアップネットワークサポート
<input type="checkbox"/>	ディレクトリクライアント
<input type="checkbox"/>	デバッグツール
<input type="checkbox"/>	ネットワーキングツール
<input type="checkbox"/>	ネットワークファイルシステムクライアント
<input type="checkbox"/>	ハードウェア監視ユーティリティ
<input type="checkbox"/>	パフォーマンスツール
<input checked="" type="checkbox"/>	ベース
<input type="checkbox"/>	メインフレームアクセス
<input type="checkbox"/>	レガシー UNIX の互換性
<input type="checkbox"/>	互換性ライブラリ

<input type="checkbox"/> 印刷クライアント
<input type="checkbox"/> 大規模システムのパフォーマンス
<input type="checkbox"/> 科学的なサポート
サーバー
<input checked="" type="checkbox"/> CIFS ファイルサーバ
<input checked="" type="checkbox"/> FTP サーバー
<input checked="" type="checkbox"/> NFS サーバー
<input checked="" type="checkbox"/> サーバーをバックアップ
<input checked="" type="checkbox"/> サーバープラットフォーム
<input checked="" type="checkbox"/> システム管理ツール
<input checked="" type="checkbox"/> ディレクトリサーバー
<input checked="" type="checkbox"/> ネットワークインフラストラクチャサーバ
<input checked="" type="checkbox"/> ネットワークストレージサーバー
<input checked="" type="checkbox"/> プリントサーバー
<input checked="" type="checkbox"/> 電子メールサーバー
Web サービス
<input type="checkbox"/> PHP サポート
<input type="checkbox"/> TurboGears アプリケーションフレームワーク
<input type="checkbox"/> Web サーバー
<input type="checkbox"/> Web サーブレットエンジン
データベース
<input type="checkbox"/> MySQL データベースクライアント
<input type="checkbox"/> MySQL データベースサーバー
<input type="checkbox"/> PostgreSQL データベースクライアント
<input type="checkbox"/> PostgreSQL データベースサーバー
システム管理
<input checked="" type="checkbox"/> SNMP サポート
<input type="checkbox"/> WBEM サポート
<input checked="" type="checkbox"/> システム管理
<input type="checkbox"/> メッセージングクライアントのサポート
<input type="checkbox"/> メッセージングサーバーのサポート

パッケージグループ名
仮想化
<input checked="" type="checkbox"/> 仮想化(*1)
<input checked="" type="checkbox"/> 仮想化クライアント
<input checked="" type="checkbox"/> 仮想化ツール(*1)
<input checked="" type="checkbox"/> 仮想化プラットフォーム
デスクトップ
<input type="checkbox"/> KDE デスクトップ
<input checked="" type="checkbox"/> X Window System
<input type="checkbox"/> グラフィカル管理ツール
<input checked="" type="checkbox"/> デスクトップ
<input type="checkbox"/> デスクトップのデバッグとパフォーマンスツール
<input type="checkbox"/> デスクトッププラットフォーム
<input type="checkbox"/> フォント
<input type="checkbox"/> リモートデスクトップクライアント
<input type="checkbox"/> レガシー X Windows システムの互換性
<input type="checkbox"/> 入力メソッド
<input type="checkbox"/> 汎用デスクトップ
アプリケーション
<input type="checkbox"/> Emacs
<input type="checkbox"/> TeX のサポート
<input type="checkbox"/> インターネットブラウザ
<input type="checkbox"/> グラフィカルツール
<input type="checkbox"/> 技術文書
開発
<input type="checkbox"/> Eclipse
<input type="checkbox"/> その他の開発
<input type="checkbox"/> サーバプラットフォーム開発
<input type="checkbox"/> デスクトッププラットフォーム開発
<input type="checkbox"/> 開発ツール

パッケージグループ名
言語
<input checked="" type="checkbox"/> 日本語のサポート

(*1) Intel64 でのみ選択可能です。

インストールガイド
Red Hat Enterprise Linux 6

発行日 **2011 年 4 月**

発行責任 **富士通株式会社**

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。